

豪雨災害対策県本部ニュース

日本共産党広島県委員会 発行 2018年9月16日 第10号

【呉市】被災者支援センター・天応地区仮設住宅の聞き取り

呉市では、9月2日に党呉市被災者支援センターを立ち上げ、被災者から要望などを聞く訪問活動に取り組んでいます。

9月15日は天応地区の仮設住宅へ。2グループに分かれて聞き取り訪問を行いました。奥田市議のグループは、以前避難所でお話を伺ったAさんから相談の問い合わせが事前に入っていたことから、Aさん宅の聞き取りから始めました。

「羽アリが何匹も発生…」

訪問すると真っ先に見せて頂いたのが赤い羽蟻です。最近、台所や玄関に何匹も発生しているとのこと。奥さんは「今まで見たことがない赤い蟻で気持ちが悪い。ヒアリやシロアリじゃないかと心配」と不安を話されました。奥田市議が紙に包み「早速、市に調査してもらいます」と対応しました。

「2年後が不安」

ご夫婦で仮設住宅に入所したAさんは、天応地区宮町の自宅で被害に遭いました。災害時、水が首まで浸かったまま救助されるまで4時間耐えました。その時の痛苦の思いを避難所で話されていました。自宅は「大規模半壊」と認定され、「屋根と壁、柱しか残っていない」と話します。

「ひどい経験をしたので、あの家にはもう住みた

くない。仮設住宅は2年間しか居れないので、次の場所を今から考えている」と話します。「すぐに引っ越さないといけないから」と机や収納家具は購入していません。机は段ボールで代用し、衣類等も段ボールに入ったままです。“2年しか居れない”という仮設住宅の入居期間の壁が将来の見通しを奪い、今の生活水準も大幅に引き下げている実態が分かりました。

「共産党、頑張って欲しい」

「共産党なら話を聞いてくれると思った」—奥田市議の名刺を大事に取っていたAさんは最後に「災害が起きて誰が一番頼りになるのか分かった。共産党に頑張って欲しい」と話しました。奥田市議は「住民のみなさんが困っていることを少しでも解決するのが政治の役割。いつでも力になります」と話しました。

聞き取り訪問ではその他に「寝室の電球に、豆電球がなく夜が不安」という声などが寄せられました。

呉市被災者支援センターは引き続き、聞き取り訪問を行い要望をお聞きし、市議会などで追及していく予定です。

【聞き取りで寄せられた要望や声】

- 電子レンジが無く、お弁当を温められない。高年齢で料理ができず冷凍食品に頼っている。レンジを支給してもらえたら助かる。
- 潮風で洗濯物がべちゃつく感じがする。
- 玄関の段差が高い。板も幅が狭く、怖い。(写真右)
- 駐輪場を作って欲しい。
- 冷蔵庫と洗濯機が大きくて助かった。



【広島市】電気温水器・給湯器の故障に義援金5万円を支給

一床下浸水の被災者支援が前進

広島市は、電気温水器や給湯器に土砂が入って壊れた場合には家屋に被害がなくても、「一部損壊」として罹災証明書の判定がされ、第一次義援金の対象となり5万円の義援金が支給されることになりました。床下浸水被害はこの間、見舞金も義援金もなく、多くの被災者から「見放されたようだ」との声があがっていました。8月28日の災害関連臨時議会で中原市議が「何らかの支援を」と求めていました。